

モデル施設の成功事例と課題を語る座談会

事業所 紹介

Introduction

R4年度 特別養護老人ホームロング・ライフ (福島市)

適切な運用マニュアルづくりと機器への理解の浸透

見守り支援機器のマニュアルがなく、機器の運用方法の浸透や操作方法の理解がすすんでいない

見守り支援機器を活用しきれていないことが主な原因



バイタルセンサーの再活用をめざす

機器管理リスト作成、設置方法に特化したマニュアルづくり、記録・報告様式の統一、LINEを活用した情報共有、OJTの仕組み（フローチャート）づくり

R5年度

特別養護老人ホームほほえみ

(喜多方市)

職員の負担軽減を目的とした見守りカメラ導入

日中・夜間とも1人でユニット対応する場面が多く、離床センサーやナースコールが重複するため、すぐに対応できず自己のリスクが高まる

見守りに必要な人手不足が主な原因



カメラ付きバイタルセンサーの導入

プロジェクトメンバーの研修、導入ユニットでの研修、ご家族への同意書、使用のためのルール作り、カメラ使用のためのアセスメントシート作成、通信環境の整備

見守り機器の運用改善による業務効率化

見守り機器を上手に活用できていないことで、訪問回数の増加・転倒事故の危険性が高いという問題が発生しており、職員の心身の負担が高まっていた

見守り機器の使い方が十分に浸透してないことが主な原因



既に導入していた見守り機器の再活用をめざす

独自のマニュアル作成、記録・報告様式を「通信関係」「カメラ設定」の項目別で設定、見守りセンサー掲示板を作成し、職員が出勤時に確認し業務に入るルーティンづくり、手順書作成をした担当者がマンツーマンでOJT

介護記録ソフトの導入による業務改善

記録にかける時間が不足していることが原因で記録内容にムラが生じ、情報共有の不足や業務のムダが発生して人手不足感につながっている

記録をする時間が不足していることが主な原因



介護記録ソフトの導入

複数の場面で行う記録シートの整理、記録ファイルの整理とタブレット置き場所の確保、業務全体の流れの再構築、使い方に特化したマニュアルづくり、記録ソフト導入に向けて全職員への周知

見守り体制の構築

見守りが不足していることが原因で転倒リスクが高く、事故のリスクがある。利用者家族の不安につながる…

ナースコールの対応が追いつけない、既存のセンサーに空振りがあることが原因



カメラ付き見守りセンサーの導入

デバイスの管理方法、マニュアル作り、本人・家族への説明と同意、施設長から全職員への周知

R6年度 介護老人保健施設ケアホームやまと (喜多方市)

見守り支援機器・インカム機器導入による効果と業務改善

見守り不足が原因で事故リスクが高く、利用者・家族・職員の不安といった影響が出ている。

既存の見守り機器の性能が良くないことや通信環境が整っていないことが主な原因



カメラ付きバイタルセンサー・インカムの導入

プロジェクトメンバーが役割をもって活動

リーダー（ミーティングの進行、議事メモの作成、chatworkへのアップロード）

調査担当、マニュアル担当、リスク担当、研修担当など

R6年度

特別養護老人ホーム エルピス森宿

(須賀川市)

装着型アシストスーツの再活用

過去に法人で導入した介護ロボットが、「機械的なことはニガテ」「介護は人しかできない」という誤認から活用されていなかった。移乗介助などの肉体的負担が高く、余裕を持った業務ができてないため、コミュニケーション不足という問題も起きていた。

介護ロボットに対する誤った認識により、導入したロボットを活用できていないことが主な原因



プロジェクトチームを立ち上げ再活用を目指す

機器を活用するため、自然と申し送り件数が増えたり、職員が装着具合をディスプレイで確認する光景も見られた。余裕をもって作業している職員や、機器に関心を持つ職員もいて、少しずつ雰囲気が変わり始めている